

バリアフリー工事の実施状況

今後、日本の高齢化はますます加速し、2025年には3世帯に1世帯が65歳以上の高齢世帯になると言われています。政府は高齢者が安心して暮らせる住環境の創造を目的に、住宅の高齢化対策（バリアフリー化）リフォームを推進しております。ここでは、住宅の高齢化対策についてまとめました。

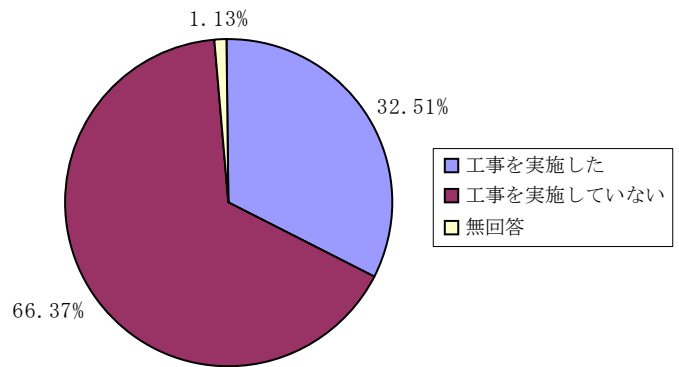
■ バリアフリー工事の実施状況

設 問

- 階段に手すりを設置したり、利用しやすい水周り設備に変えたりなどの、住宅の高齢化対策（バリアフリー工事）を実施されていますか？
- 介護保険の「住宅改修工事バリアフリー改修補助金」や地方自治体で運営している「住宅改修費助成事業」を利用されましたか？

<バリアフリー工事の実施状況>

	件数	%
工事を実施した	144	32.51%
工事を実施していない	294	66.37%
無回答	5	1.13%
合計	443	

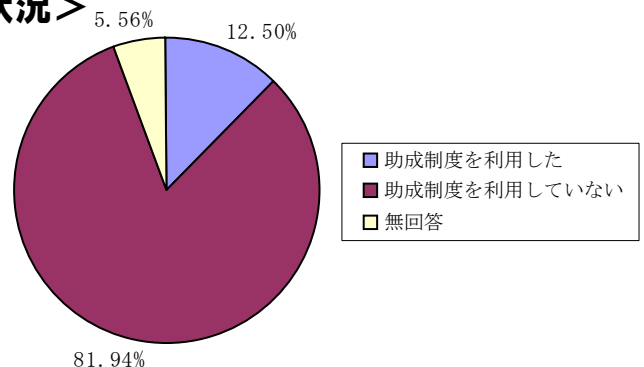


■ バリアフリー工事実施済み32.51%

バリアフリー工事の実施率は32.51%という結果になりました。住生活基本法に定める住生活基本計画によると、平成15年で一定のバリアフリー化が実施されている実績が29%とされているので、耐震診断受診者のバリアフリー実施率は平均的ですが、同計画において平成27年までに実施率を75%まで引き上げる目標からすると、今後ともより一層バリアフリー化を推進する必要があるといえます。

<バリアフリー工事に関する助成制度の利用状況>

	件数	%
助成制度を利用した	18	12.50%
助成制度を利用していない	118	81.94%
無回答	8	5.56%
合計	144	



■ バリアフリー工事に関する助成制度の利用率はわずか12.50%

バリアフリー工事に関する助成制度の利用率はわずか12.50%でほとんど利用されていないことがわかりました。これらの制度はバリアフリー工事を実施する事業者が消費者へ提案すべきものであり、制度の利用促進のために、まずは事業者への周知徹底が必要だと思われま

■ バリアフリー工事内容について

設 問

- 実施されたバリアフリー対策についてお教え下さい。また、バリアフリー対策を未実施の方でも、将来ご自身が高齢化された時のことを想定して、現在のお住まいで改善しなければならぬと感じている箇所についてお教え下さい。

廊下の拡幅・階段の勾配の緩和・浴室改良・便所改良・手すりの設置・屋内段差の改良・引き戸への取替え・床の滑り止めの設置について「既の実施している」「これから実施したい」「実施予定がない」

※ここでは、8つの項目すべてに回答のあった210件を対象にデータをまとめました。

<バリアフリー工事内容>

	すでに実施済み		これから改善したい		必要ない	
	件数	割合	件数	割合	件数	割合
手すりの設置	87	41.43%	90	42.86%	33	15.71%
便所改良	69	32.86%	67	31.90%	74	35.24%
浴室改良	66	31.43%	85	40.48%	59	28.10%
屋内段差の改良	48	22.86%	103	49.05%	59	28.10%
引き戸への取替え	29	13.81%	50	23.81%	131	62.38%
廊下の拡幅	23	10.95%	27	12.86%	160	76.19%
階段の勾配の緩和	15	7.14%	43	20.48%	152	72.38%
床の滑り止めの設置	12	5.71%	85	40.48%	113	53.81%

■ 「水周り」「手すり」「段差」が消費者の考えるバリアフリーの優先順位

上記の工事項目は「住宅の品質確保の促進等に関する法律」にて高齢者対策として具体的に挙げられているものです。中でも比較的工事費が安価で効果が目に見えやすい「手すりの設置」や実際の生活に即して満足度が高い「便所改良」「浴室改良」などについて「すでに実施済み」「これから改善したい」という回答割合が高くなりました。

一方、間取りの変更を伴って大規模工事になる割に効果が実感しづらい「引き戸への取替え」「廊下の拡幅」「階段の勾配の緩和」などは費用面の問題からか、「必要ない」と回答する方が多く見られました。

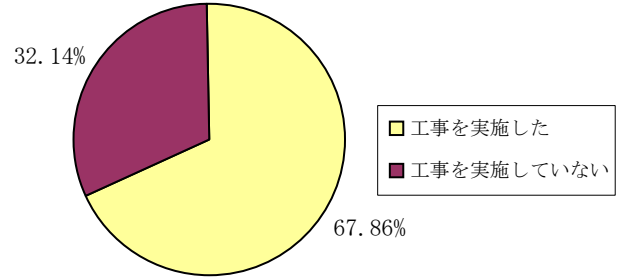
■ 要介護・要支援の家族の存在とバリアフリー工事の実施状況

設問

●現在同居されている方の中に、要介護もしくは要支援の認定を受けているご家族がいらっしゃいますか？

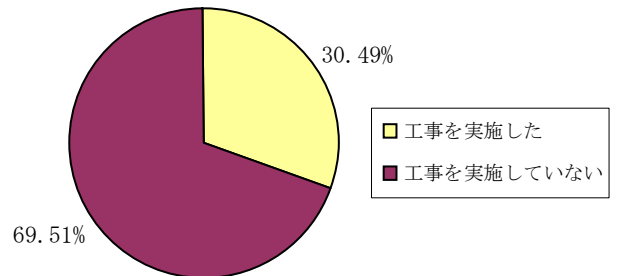
■ 要介護・要支援の家族がいる

	件数	%
工事を実施した	19	67.86%
工事を実施していない	9	32.14%
合計	28	



■ 要介護・要支援の家族がいない

	件数	%
工事を実施した	125	30.49%
工事を実施していない	285	69.51%
合計	410	



■ 要介護者・要支援者の内訳

区分	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
件数	2	2	4	9	5	2	4	28

■ 要介護者・要支援者の存在がバリアフリー化の動機に

上記のとおり、要介護・要支援の認定を受けている家族がいる世帯での工事実施率が67.86%に対し、いない世帯の工事実施率が30.49%と、要介護・要支援の認定を受けている家族の存在がバリアフリー工事の実施状況に大きく影響しています。

■ 要介護者・要支援者がいる世帯の32.14%がバリアフリー化を実施せず

要介護・要支援の認定を受けている家族がいる世帯のうち、32.14%がバリアフリー工事を実施していないことがわかりました。バリアフリー工事に係る費用の問題が大きな要因と考えられますが、P12で明らかになったように、国や自治体の助成制度はほとんど使われていないのが現状です。今後ますます加速する高齢化社会への対策として、費用の問題についても具体的な提案のできる事業者の育成が急務です。

■ 世帯主の年齢とバリアフリー工事の実施状況

<世帯主の年齢とバリアフリー工事実施状況>

	工事実施		工事なし		無回答	合計
	件数	%	件数	%		
39歳以下	10	22.73%	34	77.27%		44
40歳～49歳	22	24.44%	68	75.56%		90
50歳～59歳	33	29.73%	75	67.57%	3	111
60歳～69歳	47	37.60%	78	62.40%		125
70歳以上	31	44.29%	38	54.29%	1	70
無回答	1		1		1	3
合計	144		294		5	443

■ 60歳以上の高齢者の3割以上がバリアフリー工事を実施

上記のとおり、世帯主の年齢が高くなるにつれバリアフリー工事実施率が高くなっており、バリアフリー工事は「将来に備えて予め準備」するものではなく、必要に迫られて実施される傾向があるといえます。

■ 世帯構成とバリアフリー工事の実施状況

<世帯構成とバリアフリー工事実施状況>

	工事実施		工事なし		無回答	合計	平均年齢
	件数	%	件数	%			
配偶者と同居	119	31.40%	257	67.81%	3	379	56.81
子どもと同居	70	28.11%	177	71.08%	2	249	56.38
親と同居	36	42.86%	48	57.14%		84	52.45

■ 親と同居世帯の42.86%がバリアフリー工事を実施

上記のとおり、親と同居している世帯のバリアフリー工事実施率が42.86%と最も高く、子供と同居している世帯のバリアフリー工事実施率が28.11%と最も低い結果となりました。バリアフリー化の工事は、介護する側が介護しやすい環境をつくることともいえるので、親と同居している世帯の実施率が高くなっていると考えられます。

反面、自分自身の介護については、自身で積極的に準備するという傾向ではなく、将来のことは考えていないあるいは子供に任せるといった傾向が見えます。